

# 四半期報告書

(第53期第2四半期)

自 2022年7月1日

至 2022年9月30日

石油資源開発株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目7番12号

(E00041)

本文書は、E D I N E T (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した四半期報告書の記載事項を、P D F ファイルとして作成したものであります。

# 目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報 .....	1
第1	企業の概況 .....	1
1	主要な経営指標等の推移 .....	1
2	事業の内容 .....	2
第2	事業の状況 .....	3
1	事業等のリスク .....	3
2	経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	4
3	経営上の重要な契約等 .....	7
第3	提出会社の状況 .....	8
1	株式等の状況 .....	8
(1)	株式の総数等 .....	8
(2)	新株予約権等の状況 .....	8
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	8
(4)	発行済株式総数、資本金等の推移 .....	8
(5)	大株主の状況 .....	9
(6)	議決権の状況 .....	10
2	役員の状況 .....	10
第4	経理の状況 .....	11
1	四半期連結財務諸表 .....	12
(1)	四半期連結貸借対照表 .....	12
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	13
	四半期連結損益計算書 .....	13
	四半期連結包括利益計算書 .....	14
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	15
2	その他 .....	24
第二部	提出会社の保証会社等の情報 .....	25

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月11日
【四半期会計期間】	第53期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	石油資源開発株式会社
【英訳名】	Japan Petroleum Exploration Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤田 昌宏
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
【電話番号】	03（6268）7001
【事務連絡者氏名】	総務法務部文書グループ長 岡本 光正
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
【電話番号】	03（6268）7001
【事務連絡者氏名】	総務法務部文書グループ長 岡本 光正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第52期 第2四半期 連結累計期間	第53期 第2四半期 連結累計期間	第52期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	(百万円)	118,507	120,708	249,140
経常利益	(百万円)	19,349	43,084	43,674
親会社株主に帰属する四半期（当期） 純損益（△は損失）	(百万円)	△119,676	31,430	△30,988
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	△110,004	34,953	△18,992
純資産額	(百万円)	321,208	431,832	402,770
総資産額	(百万円)	449,044	509,949	471,941
1株当たり四半期（当期）純損益（△ は損失）	(円)	△2,096.81	573.89	△545.64
潜在株式調整後1株当たり四半期（当 期）純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	64.8	78.1	78.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△7,558	42,806	△1,052
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△625	△22,080	52,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△54,201	△5,985	△70,939
現金及び現金同等物の四半期末（期 末）残高	(百万円)	98,263	168,384	144,513

回次		第52期 第2四半期 連結会計期間	第53期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純損益（△は損失）	(円)	△2,221.29	290.26

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第52期第2四半期連結累計期間及び第52期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、1株当たり四半期（当期）純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第53期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動は、以下のとおりであります。

### <日本セグメント>

当第2四半期連結会計期間において、JAPEX Insurance Ltd. を設立し、連結子会社としております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当第2四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

- (1) 第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスク 2 事業に関するリスク 1. E&P事業 (3)海外 E&P事業の主な個別プロジェクトに係るリスク ②ロシア サハリン1プロジェクト

当社が持分法適用関連会社であるサハリン石油ガス開発株式会社を通じて参画する、ロシア・サハリン島沖合の原油・天然ガス開発事業につきましては、ロシア連邦政府により新会社が設立され、生産物分与契約に基づく契約上の権利義務は新会社に承継されました。本件については、後記「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」においても記載しております。

- (2) 第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスク 5 国の保有する当社株式について

当社は、2021年11月10日から2022年8月31日までに自己株式の取得を行い、その取得した株式の全数（2,854,700株）を2022年9月30日付で消却いたしました。その結果、国（経済産業大臣）の所有株式数の割合は、34.88%から35.79%に増加しました。

## 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における売上高は120,708百万円と前年同期に比べ2,200百万円の増収（+1.9%）となり、売上総利益は33,980百万円と前年同期に比べ8,195百万円の増益（+31.8%）となりました。前年同期に比べ増収増益となった主な要因は、前連結会計年度にカナダ・オイルサンドプロジェクトを推進する連結子会社であったJapan Canada Oil Sands Limited（以下、「JACOS」）の全株式を譲渡したことにより希釈ビチューメンの販売が無くなった一方で、原油価格やLNG価格の上昇により国内の原油及び天然ガスの販売価格が上昇したことなどによるものです。

採鉱費は、1,140百万円と前年同期に比べ887百万円増加（+351.6%）し、販売費及び一般管理費は、13,535百万円と前年同期に比べ2,455百万円減少（△15.4%）した結果、営業利益は、前年同期に比べ9,764百万円増益の19,304百万円となりました。

経常利益は、主に為替差益が増加したことやデリバティブ評価益を計上したことなどにより、前年同期に比べ23,734百万円増益の43,084百万円となりました。

税金等調整前四半期純損益は、前年同期に計上したJACOS全株式の譲渡による子会社株式売却損や、JAPEX Montney Ltd. が保有していたカナダ国ブリティッシュ・コロンビア州ノースモントニー地域のシェールガス鉱区の権益譲渡による権益譲渡損がなくなったことなどにより、前年同期に比べ162,383百万円増益の43,068百万円の税金等調整前四半期純利益（前年同期は119,315百万円の税金等調整前四半期純損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同期に比べ151,106百万円増益の31,430百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期は119,676百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、売上高の内訳は次のとおりであります。

#### (イ) E & P事業

E & P事業の売上高は、原油の販売価格は上昇したものの、JACOS全株式の譲渡により希釈ビチューメンの販売が無くなったことなどにより、14,142百万円と前年同期に比べ35,678百万円の減収（△71.6%）となりました。

#### (ロ) インフラ・ユーティリティ事業

インフラ・ユーティリティ事業の売上高は、電力の販売量が減少したものの、原油価格やLNG価格の上昇により天然ガス（国内）や電力の販売価格が上昇したことなどに伴い、76,779百万円と前年同期に比べ30,397百万円の増収（+65.5%）となりました。

#### (ハ) その他

請負（掘さく工事及び地質調査の受注等）、液化石油ガス（LPG）・重油等の石油製品等の販売及びその他業務受託等の売上高は、29,786百万円と前年同期に比べ7,482百万円の増収（+33.5%）となりました。

主なセグメントごとの経営成績（セグメント間の内部取引消去前）は、次のとおりであります。

#### ① 日本

日本セグメントの売上高は、主に原油、天然ガス（LNG含む）、電力、請負及び石油製品等により構成されております。当第2四半期連結累計期間における売上高は、原油や天然ガス、電力の販売価格が上昇したことなどにより、118,016百万円と前年同期に比べ41,193百万円の増収（+53.6%）となりました。セグメント利益は、価格上昇による販売収支の改善などにより、22,688百万円と前年同期に比べ11,753百万円の増益（+107.5%）となりました。

#### ② 北米

北米セグメントの売上高は、主に原油及び天然ガス（希釈ビチューメン含む）により構成されております。当第2四半期連結累計期間における売上高は、主にJACOS全株式の譲渡により希釈ビチューメンの販売が無くなったことなどにより、1,212百万円と前年同期に比べ31,844百万円の減収（△96.3%）となりました。セグメント利益は、希釈ビチューメンの販売が無くなったことなどにより、548百万円と前年同期に比べ1,189百万円の減益（△68.5%）となりました。



③ 欧州

欧州セグメントにおいては、英領北海アバディーン沖合に位置する海上鉦区での開発作業を実施しております。当第2四半期連結累計期間におけるセグメント損失は、88百万円（前年同期は81百万円のセグメント損失）となりました。

④ 中東

中東セグメントの売上高は、原油により構成されております。当第2四半期連結累計期間における売上高は、1,479百万円と前年同期に比べ7,147百万円の減収（△82.9%）となりました。セグメント利益は、1,134百万円と前年同期に比べ80百万円の減益（△6.6%）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ38,007百万円増加し、509,949百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ10,884百万円の増加となりました。これは、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したものの、現金及び預金が増加したためであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ27,123百万円の増加となりました。これは、投資その他の資産のその他に含めている生産物回収勘定への投資及び有形固定資産における建設仮勘定の計上等が、それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ8,945百万円増加し、78,117百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ9,980百万円の増加となりました。これは、未払法人税等が増加したことなどによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,034百万円の減少となりました。これは主に、投資有価証券の時価下落などにより繰延税金負債が減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ29,061百万円増加し、431,832百万円となりました。これは、為替換算調整勘定及び利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末に比べ23,870百万円増加し、168,384百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は42,806百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益43,068百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は22,080百万円となりました。これは主に定期預金の払戻による収入15,470百万円、貸付金の回収による収入7,126百万円によって資金を得ましたが、定期預金の預入による支出19,197百万円、有形固定資産の取得による支出14,735百万円、生産物回収勘定の支出13,657百万円の資金を使用したことなどによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は5,985百万円となりました。これは主に自己株式の取得による支出4,262百万円の資金を使用したことなどによるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等並びに優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等並びに当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は211百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、前年同期比で生産、販売の実績に著しい変動がありました。

生産の実績については、前連結会計年度においてJACOSの全株式を譲渡したことにより、ピチューメンの生産が無くなりました。また、前連結会計年度においてJAPEX Montney Ltd. が保有するシェールガス鉱区の権益譲渡をしたことにより天然ガスが著しく減少しております。

販売の実績については、「第2 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載しております。

(7) 主要な設備

前連結会計年度末における当社の重要な設備の新設等の計画のうち、「採掘井1坑（掘削深度約5,300m）（所在地：新潟県小千谷市。投資予定金額総額：5,900百万円）」について、会計処理の見直しにより投資予定金額総額を4,400百万円に変更しております。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	54,300,076	54,300,076	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	54,300,076	54,300,076	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2022年9月30日 (注)	△2,854,700	54,300,076	—	14,288	—	—

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
経済産業大臣	東京都千代田区霞が関1丁目3番1号	19,432,724	35.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	6,667,000	12.28
株式会社INPEX	東京都港区赤坂5丁目3番1号	2,852,212	5.25
CEP LUX-ORBIS SICAV (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	31 Z. A. BOURMICH, L-8070 BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	2,310,318	4.25
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,372,800	2.53
JFEエンジニアリング株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目2番3号	924,012	1.70
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都港区港南2丁目15番1号 品川 インターシティA棟)	732,900	1.35
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	720,152	1.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都港区港南2丁目15番1号 品川 インターシティA棟)	598,382	1.10
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支 店 カストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	535,019	0.99
計	—	36,145,519	66.57

(注) 2022年4月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、Orbis Investment Management (Guernsey) Limited及びその共同保有者であるOrbis Investment Management Limitedが2022年3月31日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2022年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
Orbis Investment Management (Guernsey) Limited	ガーンジー、GY1 1DB セント・ピーター・ ポート、ル・ボーデージ、チューダー・ハ ウス1階	1,570,400	2.75
Orbis Investment Management Limited	バミューダHM11ハミルトン、フロント・ス トリート25、オービス・ハウス	2,275,657	3.98

## (6) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 2,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 54,275,000	542,750	—
単元未満株式	普通株式 22,676	—	—
発行済株式総数	54,300,076	—	—
総株主の議決権	—	542,750	—

- (注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、「株式給付信託 (BBT (Board Benefit Trust))」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する当社株式 71,100株 (議決権711個) が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式10株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数 (株)	他人名義所有株 式数 (株)	所有株式数の合 計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
石油資源開発 株式会社	東京都千代田 区丸の内一丁 目7番12号	2,400	—	2,400	0.00
計	—	2,400	—	2,400	0.00

- (注) 「株式給付信託 (BBT)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する当社株式71,100株は上記自己株式に含めておりません。

## 2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	147,241	176,455
受取手形、売掛金及び契約資産	※1 47,564	※1 29,567
有価証券	3,030	3,000
商品及び製品	2,143	2,447
仕掛品	29	143
原材料及び貯蔵品	12,503	15,596
その他	14,458	10,646
貸倒引当金	△51	△51
流動資産合計	226,920	237,804
固定資産		
有形固定資産	92,837	104,084
無形固定資産	5,802	5,895
投資その他の資産		
投資有価証券	108,910	108,750
その他	37,812	53,757
貸倒引当金	△45	△45
海外投資等損失引当金	△297	△297
投資その他の資産合計	146,380	162,165
固定資産合計	245,021	272,144
資産合計	471,941	509,949
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,479	10,325
未払法人税等	2,196	9,393
引当金	1,905	1,878
その他	9,660	13,624
流動負債合計	25,241	35,222
固定負債		
繰延税金負債	16,867	16,260
退職給付に係る負債	3,376	3,372
引当金	486	547
資産除去債務	19,539	19,530
その他	3,659	3,185
固定負債合計	43,929	42,895
負債合計	69,171	78,117
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,288	14,288
資本剰余金	2,607	—
利益剰余金	310,592	335,169
自己株式	△3,886	△135
株主資本合計	323,602	349,322
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,346	44,963
繰延ヘッジ損益	△1,862	△1,683
為替換算調整勘定	89	4,265
退職給付に係る調整累計額	1,464	1,346
その他の包括利益累計額合計	48,036	48,892
非支配株主持分	31,131	33,617
純資産合計	402,770	431,832
負債純資産合計	471,941	509,949



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	118,507	120,708
売上原価	92,722	86,727
売上総利益	25,784	33,980
探鉱費	252	1,140
販売費及び一般管理費	※ 15,991	※ 13,535
営業利益	9,540	19,304
営業外収益		
受取利息	87	406
受取配当金	2,186	1,651
持分法による投資利益	6,470	6,684
為替差益	3,941	9,176
デリバティブ評価益	—	6,446
その他	450	173
営業外収益合計	13,137	24,540
営業外費用		
支払利息	1,305	2
遅延損害金	1,087	—
コミットメントフィー	144	155
災害損失引当金繰入額	377	250
その他	412	352
営業外費用合計	3,327	760
経常利益	19,349	43,084
特別利益		
固定資産売却益	16	—
特別利益合計	16	—
特別損失		
固定資産除却損	4	15
子会社株式売却損	94,122	—
権益譲渡損	44,281	—
その他	272	—
特別損失合計	138,681	15
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△119,315	43,068
法人税等	△484	8,970
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△118,831	34,097
非支配株主に帰属する四半期純利益	844	2,667
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△119,676	31,430

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△118,831	34,097
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,023	△3,378
繰延ヘッジ損益	△224	△64
為替換算調整勘定	205	4,036
退職給付に係る調整額	△118	△117
持分法適用会社に対する持分相当額	△58	379
その他の包括利益合計	8,827	855
四半期包括利益	△110,004	34,953
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△110,496	32,285
非支配株主に係る四半期包括利益	491	2,667

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△119,315	43,068
減価償却費	11,831	5,497
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	56	64
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△102	△4
海外投資等損失引当金の増減額(△は減少)	△187	—
受取利息及び受取配当金	△2,274	△2,058
支払利息	1,305	2
為替差損益(△は益)	△3,472	△9,707
デリバティブ評価損益(△は益)	—	△6,446
子会社株式売却損益(△は益)	94,122	—
持分法による投資損益(△は益)	△6,470	△6,684
権益譲渡損	44,281	—
生産物回収勘定の回収額	6,289	—
売上債権の増減額(△は増加)	3,652	18,016
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,063	△3,454
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,156	22
その他	△31,360	1,321
小計	△4,863	39,635
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,695	3,171
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△7,558</b>	<b>42,806</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△22,237	△19,197
定期預金の払戻による収入	23,658	15,470
有形固定資産の取得による支出	△8,310	△14,735
無形固定資産の取得による支出	△122	△85
投資有価証券の取得による支出	△4,382	△85
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	20,944	—
生産物回収勘定の支出	△12,401	△13,657
貸付けによる支出	△5,515	△422
貸付金の回収による収入	13	7,126
利息及び配当金の受取額	8,311	3,421
その他	△584	85
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△625</b>	<b>△22,080</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	20,100	—
短期借入金の返済による支出	△10,000	—
長期借入金の返済による支出	△59,443	—
自己株式の取得による支出	—	△4,262
配当金の支払額	△1,427	△1,392
非支配株主への配当金の支払額	△875	△181
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,626	—
利息の支払額	△793	△2
リース債務の返済による支出	△136	△145
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△54,201</b>	<b>△5,985</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,685	9,129
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△59,699	23,870
現金及び現金同等物の期首残高	157,963	144,513
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 98,263	※ 168,384

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第2四半期連結会計期間より、JAPEX Insurance Ltd.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、当社の関連会社である(同)網走バイオマス第2発電所は、重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(原価差異の繰延処理)

操業度の時期的な変動により発生した原価差異は、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産(その他)及び流動負債(その他)として繰り延べております。

(税金費用の計算)

税金費用については、当社及び一部の連結子会社は当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

当連結会計年度の第1四半期の四半期報告書(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について、当第2四半期連結会計期間において重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 1. 受取手形、売掛金及び契約資産には、工事未収入金を含めております。

2. 偶発債務

(単位：百万円)

前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)	
(1) 金融機関からの借入金等に対する保証債務			
熊本みらいエル・エヌ・ジー(株)	31	(同)網走バイオマス第2発電所	2,233
従業員(住宅資金借入)	22	(同)網走バイオマス第3発電所	1,791
グリーンランド石油開発(株)	20	熊本みらいエル・エヌ・ジー(株)	28
		従業員(住宅資金借入)	19
(2) 生産設備に関連する債務に対する保証			
Kangean Energy Indonesia Ltd.	116		—
合計	191	合計	4,072

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
人件費	5,853	5,325
(うち退職給付費用)	258	258
運賃	3,752	1,184
減価償却費	2,061	2,020

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
現金及び預金勘定	102,098	176,455
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△6,835	△11,070
取得日から3ヶ月以内に償還期間の到来する 短期投資等		
(有価証券) マネー・マネージメント・ ファンド他	3,000	3,000
現金及び現金同等物	98,263	168,384

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,428	25	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

(注) 2021年6月25日定時株主総会の配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する株式に対する配当金1百万円が含まれます。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月9日 取締役会	普通株式	1,428	25	2021年9月30日	2021年12月13日	利益剰余金

(注) 2021年11月9日取締役会の配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する株式に対する配当金1百万円が含まれます。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,392	25	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

(注) 2022年6月28日定時株主総会の配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する株式に対する配当金1百万円が含まれます。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月10日 取締役会	普通株式	8,144	150	2022年9月30日	2022年12月12日	利益剰余金

(注) 2022年11月10日取締役会の配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する株式に対する配当金10百万円が含まれます。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年11月9日開催の取締役会において、自己株式取得に係る事項を決議し、当第2四半期連結会計期間末までに自己株式2,854,700株を取得いたしました。これにより、当第2四半期連結累計期間において自己株式を4,262百万円取得いたしました。

また、当社は2021年11月9日開催の取締役会において、自己株式消却に係る事項を決議し、2022年9月30日付で、自己株式2,854,700株を消却いたしました。これにより、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が2,607百万円、利益剰余金が5,396百万円、自己株式が8,004百万円それぞれ減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	北米	欧州	中東	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	76,823	33,056	—	8,627	118,507	—	118,507	—	118,507
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	76,823	33,056	—	8,627	118,507	—	118,507	—	118,507
セグメント利益 又は損失 (△)	10,934	1,737	△81	1,214	13,804	—	13,804	△4,264	9,540

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,264百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,265百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	北米	欧州	中東	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	118,016	1,212	—	1,479	120,708	—	120,708	—	120,708
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	118,016	1,212	—	1,479	120,708	—	120,708	—	120,708
セグメント利益 又は損失 (△)	22,688	548	△88	1,134	24,281	—	24,281	△4,977	19,304

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,977百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,977百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(有価証券関係)

その他有価証券で市場価格のあるものが、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

その他有価証券

前連結会計年度 (2022年3月31日)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 株式	12,497	79,423	66,925
(2) 債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	30	30	—
その他	—	—	—
(3) その他	3,000	3,000	—
合計	15,527	82,453	66,925

当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)

	取得原価 (百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 株式	12,497	74,732	62,234
(2) 債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3) その他	3,000	3,000	—
合計	15,497	77,732	62,234



(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

(単位：百万円)

		報告セグメント				
		日本	北米	欧州	中東	合計
E & P 事業	原油	8,136	730	—	8,627	17,494
	希釈ビチューメン	—	31,121	—	—	31,121
	天然ガス（海外）	—	1,204	—	—	1,204
	小計	8,136	33,056	—	8,627	49,820
インフラ・ユーティリティ事業	天然ガス（国内）	21,238	—	—	—	21,238
	液化天然ガス	8,186	—	—	—	8,186
	電力	14,998	—	—	—	14,998
	その他	1,960	—	—	—	1,960
小計	46,382	—	—	—	46,382	
その他の事業	請負	3,394	—	—	—	3,394
	石油製品・商品	17,853	—	—	—	17,853
	その他	1,055	—	—	—	1,055
	小計	22,303	—	—	—	22,303
合計	76,823	33,056	—	8,627	118,507	

(注) その他の源泉から生じる収益の額に重要性はありません。

当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

（単位：百万円）

		報告セグメント				
		日本	北米	欧州	中東	合計
E & P 事業	原油	11,450	1,171	—	1,479	14,101
	希釈ビチューメン	—	—	—	—	—
	天然ガス（海外）	—	40	—	—	40
	小計	11,450	1,212	—	1,479	14,142
インフラ・ユーティリティ事業	天然ガス（国内）	35,966	—	—	—	35,966
	液化天然ガス	13,486	—	—	—	13,486
	電力	25,251	—	—	—	25,251
	その他	2,074	—	—	—	2,074
	小計	76,779	—	—	—	76,779
その他の事業	請負	3,861	—	—	—	3,861
	石油製品・商品	25,037	—	—	—	25,037
	その他	887	—	—	—	887
	小計	29,786	—	—	—	29,786
合計		118,016	1,212	—	1,479	120,708

（注） その他の源泉から生じる収益の額に重要性はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (△)	△2,096円81銭	573円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失(△)(百万円)	△119,676	31,430
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又 は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(百万 円)	△119,676	31,430
普通株式の期中平均株式数(千株)	57,075	54,766

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間76,970株、当第2四半期連結累計期間74,100株)。

(重要な後発事象)

(サハリン1プロジェクトの新会社への事業移管について)

当社は、持分法適用関連会社であるサハリン石油ガス開発株式会社(以下、「SODECO」)を通じて、ロシア・サハリン島沖合の原油・天然ガス開発事業(以下、「サハリン1プロジェクト」)に参画しております。サハリン1プロジェクトについては、ロシア連邦大統領令第723号(2022年10月7日付)及びロシア連邦政府令第1808号(同10月12日付)に基づき、新たな事業主体Sakhalin-1 Limited Liability Company(以下、「LLC」)が同10月14日に設立され、生産物分与契約に基づく契約上の権利義務はLLCに承継されました。

SODECOはロシア連邦政府の許可により、権益比率に応じたLLCの持分取得を通じてサハリン1プロジェクトへの参画を継続することが可能となりますが、サハリン1プロジェクトへの影響並びに翌四半期以降の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況への影響額は現在精査中であります。

## 2 【その他】

2022年11月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………8,144百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………150円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2022年12月12日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

石油資源開発株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 湯川 喜雄

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山崎 一彦

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉田 剛

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石油資源開発株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石油資源開発株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。